

# CASBEE® 京都-新築

## 評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE京都-新築2011(v.1.2)  
 ■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築(2011年版)

### 1) 概要入力

#### ① 建物概要

■建物名称	京都学園中学高等学校	
■建設地・気候区分	京都府京都市右京区花園寺ノ中町10番地1 他	地域区分IV
■地域・地区	都市計画区域内(市街化区域)	一般地域
■竣工年(予定/竣工)	2014年9月	予定
■敷地面積	19719.29	m <sup>2</sup>
■建築面積	2078.42	m <sup>2</sup>
■延床面積	5,628.41	m <sup>2</sup>
■建物用途名	中学校・高等学校 学校,	
■階数	地上4F	
■構造	RC造	
■平均居住人員	1,400	人(想定値)
■年間使用時間	2,000	時間/年(想定値)

#### ② 評価の実施

■評価の実施	2013年5月1日	実施設計段階
■作成者	稲毛 誠	
■確認日		
■確認者		
■LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

### 2) 個別用途入力

#### ① 用途別延床面積

事務所		m <sup>2</sup>
学校	5628.41	m <sup>2</sup>
物販店		m <sup>2</sup>
飲食店		m <sup>2</sup>
集会所		m <sup>2</sup>
工場		m <sup>2</sup>
病院		m <sup>2</sup>
ホテル		m <sup>2</sup>
集合住宅		m <sup>2</sup>

注) 建物全体の2割以上を占める電算室は、工場として評価する。

#### ② 住居・宿泊部分の比率

■病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■集合住宅の延床面積のうち、住居部分の床面積の比率	

#### ③ 詳細用途別延床面積の比率入力(オプション)

学校		5628.41
小中高等学校	1.0	5628.41

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都学園中学高等学校	階数	地上4F
建設地	京都府京都市右京区花園寺ノ中町1	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	1,400 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2013年5月1日
敷地面積	19,719 m <sup>2</sup>	作成者	稲毛 誠
建築面積	2,078 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,628 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合		その他
既存建物、光楕館との一体利用できる施設計画としています。中庭に対して、新棟の多目的室や光楕館のラウンジが面することで、交流を育み生徒たちの活き活きとした活動が行われるように計画しています。体育館に大屋根を配し、軒先に庇を配することで地域に相応しい景観としています。		・地下ピットの保守・点検は点検口よりタラップにて点検する。
<b>Q1 室内環境</b> ・全館禁煙としています。	<b>Q2 サービス性能</b> ・適所にPS・EPSを配置しています。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
<b>LR1 エネルギー</b> ・太陽光パネルの設置。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・内装の一部に木材の利用。	<b>LR3 敷地外環境</b>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される